

# 1 発表テーマ：花のある喜び、実のある楽しみ

2 所属先所在の市町村：豊田市

3 所属先等名称：医療法人豊和会 グループホーム プルミエールさなげ

4 役職：副主任 介護福祉士

5 発表者氏名：酒井沙奈香

【はじめに】プルミエールさなげは、平成 19 年 12 月にオープンした。定員 18 名（2 ユニット）のグループホームで、介護老人保健施設さなげに隣接する形で同敷地内にある。グループホームが開設して 9 年が経とうとしている今、約 3000 坪の敷地には四季折々の花が咲き、果物が実る。グループホームの横には畑や花壇もある。

そこで、この環境をより積極的に活用し、季節の花や果実、野菜作りを楽しめるよう、平成 26 年度より年間計画を立案し取り組んできた。また、さなげの周辺には地域の花の名所も多い。同時に外出支援にも力を入れてきた。四季の花を喜び、野菜の成長過程や果物の色付き、収穫を楽しみ、献立やおやつで味わう。入居者の日常がより豊かで喜びの多いものとなるよう支援してきた。その取り組みについて報告する。

【目的】入居者が四季を感じ、旬を味わうことで、より喜びの多い生活を営むことができる。

【方法】花や野菜作り、育てた野菜と果物の収穫と調理、四季の花や果物の鑑賞やそのための外出

→年間計画の立案と実行

→個別援助計画への反映

→活動支援に対するアンケートの実施

→アルバムやさなげ四季マップの作成

→ホームページへの活動報告の掲載

季節感のある環境の提供

→敷地内の花や果物の日々の鑑賞

→華道・茶道イベントの開催

→職員手作りの生花を飾る（老健中庭）

→季節毎に変化する光触媒の造花を飾る

【期間】平成 26 年 4 月～平成 28 年 11 月

【経過・結果】

1. 計画立案：入居者、職員で相談し、月単位での野菜・花作り（グループホーム菜園・花壇）と収穫、敷地内の果物の収穫、収穫した野菜や果物を利用したおやつ作り、花の鑑賞等を目的にした外出支援について検討した。入居者に経験者が多い菜園の運営（野菜作り）等については、入居者の意見を積極的に取り入れた。運営推進会議では地域の花の見所やイベント等の情報を得るよう努めた。

一つひとつのイベントに対しては、担当職員が企画書を事前に作成し、職員間で情報の共有に努めた。平成 28 年度は、この企画書をより有効なものにするために、作成時職員で検討し、イベント毎の重点目標を定めることとした。また、利用者により楽しみの多い行事になる様工夫した。例えば、山桃を使ったお菓子作りでは、収穫の際の様子等を写真でお話してから、イベントを開始するようにした。（写真①）近隣の花の名所（写真②）へ出かける際は、事前にパンフレットを利用し、花壇の位置や公園の様子をお話するなど、企画の段階から楽しんでいただけるよう心掛けた。

2. 計画実施：職員アンケートで多かった事柄として「事前に企画書で確認はするものの、実際に野菜や花を育てた事が無く戸惑った。」との意見があった。比較的若い職員（平均年齢：42.9 歳）も多いこと、

農作業の経験者が少ない等がその理由としてあげられる。入居者（平均年齢：86.0歳）の中には、経験者が多く、常にアドバイスを頂く形で作業を進めた（写真③）。入居者の中にも初めて体験される方があったが、入居者はその初体験を喜ばれている様子だった。アンケートでは「種や苗が思うように育たなかった。天候に左右され、計画通りに行かない。」等の意見もあった。収穫物を調理に活かす際には、「バリエーションを考えことが大変。」との意見が聞かれ、多少なりとも負担感がある様子であった。しかし、全職員が、これらのイベント全てが、入居者の生活を喜びの多いものにするために有効だと答えた。

3. 個別援助計画への反映：年度の初めに、入居者のアセスメントから1年間の生活の目標を設定する。その実現のために長期目標や短期目標を設定し、支援する。例えば、平成28年度当初の生活の目標の41%が、今回の取り組みに通ずるものであり、この取り組みの有効性が理解できた。

2. アルバムや四季マップの作成、ホームページへの掲載：日々の活動やイベントの様子は、写真に撮り、アルバムに貼り、ボードに掲示している。活動報告の形で、1回/2ヶ月ホームページにも掲載している。また、さなげの敷地内には、四季を通じて、14種類の花が咲き、9種類の果物が実る（写真④）。日々の散歩の中で花や果物の実りを肌で感じる。敷地内の四季マップを作製した（写真⑤）。

3. 華道・茶道のイベントや門松作りなど：1回/月の華道では、正月花に挑戦した。門松も毎年手作りで作成する（写真⑥）。母体老健の喫茶の日には、職員手作りの中庭の生花をバックにコーヒーを頂く。皆さん中庭の花をととても楽しみにされている（写真⑦）。また、四季で変化する光触媒の造花も好評だ（業者に依頼している）。

#### 【考察】

屋外活動・外出は、その年の天候やインフルエンザの流行、利用者のADL等により大きく影響されるため、一概に年度別の利用状況の比較は難しかった。企画の件数で見ると、取組み開始後は約2倍に増加しており、企画を担当した職員の意識も大きく変化したことが窺える。その分、慣れない野菜や花作り、献立作り・調理などにかかる負担感を解消するためのシステム作りも必要だと考えた。例えば、母体老健の作業療法士や管理栄養士との連携（農作業・調理・献立の指導を受ける）や運営推進会議での意見徴収、利用者の能力の把握と積極的な活用、ボラティアの導入等が有効であり、今後検討していく。

おやつ作りの際、収穫の様子を写真で見て頂くことは、記憶障害を認める入居者にとって、自分が収穫の過程に関わっていたことを再認識できる良い機会となった。調理に関心を持ち、参加される様子は、大変印象的であり、画像が持つ力や関心事が導く積極性を実感した。また、能力の再現の大切さと同時に、80歳代にして初めて経験する農作業に新鮮な喜びを感じる入居者に、新しいイベント企画の必要性も痛感した。

今回の取り組みでは、季節を感じ、旬を味わうことが、喜びの多い生活に繋がる事を目的に、これまでの活動やイベントを整理し、見直し、進化させる機会となった。しかし、グループホームの本来の姿からすれば、あまりに計画的だと違和感がある。実は、計画的に、ただし自然に、入居者の目や舌を楽しませることができる。そんな関わりも大切にしていきたい。

次ページに活動の様子を掲載しました。ご覧ください。

●山桃のジャム作り (写真① 収穫やジャム作りの様子を写真を使ってお話ししました。)



山桃のジャムを使用し、  
パフェを作りました。



●外出支援です。四季折々の景色を楽しまれています。(写真②)



●野菜作りの様子です。入居者様が主体となり苗や種を選び、耕作、植付、収穫、調理まで行います。(写真③)



●施設敷地内の花々の様子です。(写真④)



●四季のマップ作り (写真⑤)



●正月花と角松 (写真⑥)



●老健さなげの中庭と喫茶の様子です。(写真⑦)

